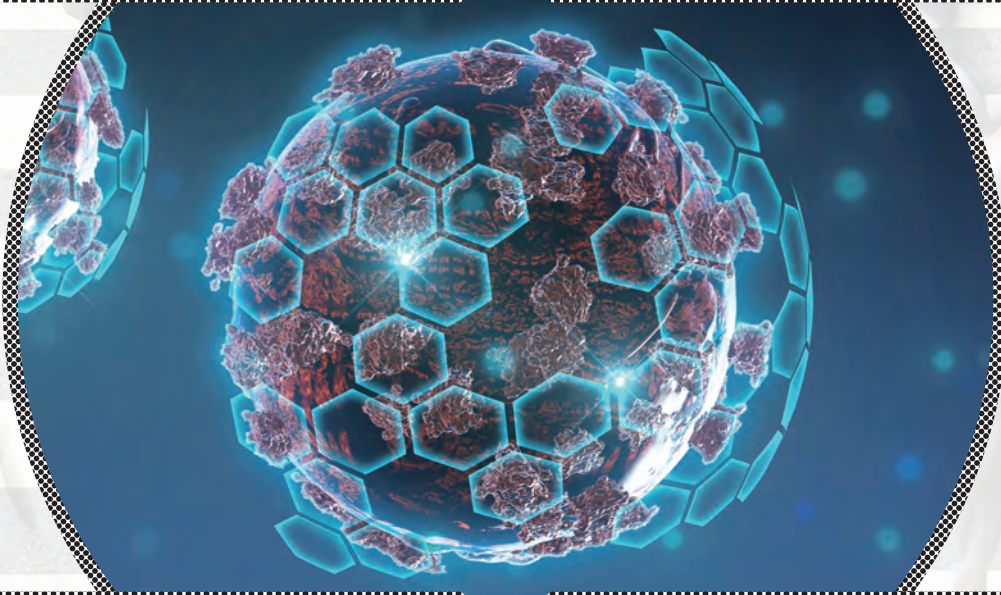


shaigaku

ひろば

第3号
2021年 No.3

特集 withコロナ時代 — 私たちの取り組み



学校法人 日本リハビリテーション学舎

専門学校 **社会医学技術学院**

テルマエ・ロマエとモーツァルトのウィッグ

学校法人 日本リハビリテーション学舎 事務局長 清水 茂



半世紀近く合唱を趣味としている私がかつて所属していた東京バッハ合唱団で、同じメンバーの男性（建設会社の社長さん）が、受難曲やカンタータの演奏本番で、バッハさながらのカツラ姿で登場し、驚かされたのを記憶しております。学校の音楽室に飾られた肖像画のバッハやモーツァルトは、当時の貴族たちと同様、主に権威の象徴として立派なカツラを着用していたのですが、実は他に、衛生上の切実な理由もあったようです。

中世以降、多くの優れた音楽や美術作品を創出したヨーロッパですが、他の地域とは異なる衛生観念をもっていました。ローマ時代には共同浴場（ラテン語でテルマエ・ロマエ）が盛んでしたが、14世紀の黒死病（ペスト）など感染症がたびたび流行し、共同浴場も感染源のひとつとされ、また、体について「アカ」がさまざまな病原体から体を守ってくれるという因習もあり、入浴の習慣からは長らく遠ざかることとなりました。その結果、におい対策の香水が発達し、有力者はノミ・シラミの繁殖を防ぐために頭髪を刈り、カツラを着用することとなったのです。モーツァルトのカツラの下がスキンヘッドだったかどうかは分かりませんが、あまり想像したくないですね。

翻って江戸期以降の銭湯文化やシャワートイレの発明など、清潔好きでは定評のあるわが国民ですが、新型コロナウイルス感染症の感染率がヨーロッパ諸国などより低いことも、伝統的な衛生観念の違いが、要因のひとつとなっているのかもしれませんが、いずれにしろ、因習や妄言にとらわれず、科学的な根拠に基づいた対応により、この歴史的事態が一日も早く終息することを祈るばかりです。

さて今回の『社医学ひろば』は、コロナ禍に翻弄された2020年における本学院の、学生の感染予防を第一として実践した授業の実施状況や各種感染予防対策、経済支援などについて特集いたします。

社医学ひろば 第3号 2021年No.3

[CONTENTS]

特集 withコロナ時代—私たちの取り組み	3
卒業生インタビュー	10
教員紹介	12
クラスメートの横顔	14

表紙について

全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。学院では、学生・教職員一丸となって感染予防に取り組みました。

コロナ禍の授業等については特集をご覧ください。

(ひろば編集委員)

特集

withコロナ時代 — 私たちの取り組み

世界中に広がった新型コロナウイルスは、私たちの生活を一変させ教育現場にも大きな影響を及ぼしました。しかし、学びを止めるわけにはいきません。学院としての対応・取り組みをお示しするとともに、医療現場におけるコロナ対策をお届けします。

寄稿

コロナ禍の学院授業

専門学校 社会医学技術学院
副学院長 帯刀隆之



理学療法士・作業療法士の養成校であっても通常の学校と何も変わりはありません。入学式もあれば卒業式もあります。本学修業年限の3年または4年を修了した暁には、晴れて新米臨床家として頼もしい成長の姿を見せてくれる卒業生、そしてその席を譲るように、新学期には資格取得を目指して瞳を輝かせる若人たちとの新たな出会いがあります。学院にとっては、まさに本学の伝統を過去から未来へと紡ぐ欠かすことのできない学校行事です。

ところが、2020年春は学院風景が一変しました。新型コロナウイルスのまん延です。

年明けのころは、まだ隣国の非常事態という印象でした。しかし、見る見るうちに私たちの生活圏にまで影響は広がりました。直に迫っていた卒業式は、クラスを分散させ卒業証書授与のみの形で辛うじて開催しました。

このころには、新学期の授業はどうなるのか不穏な空気が漂っていました。医療専門職を養成する機関という自負もあり、学内で感染クラスターを生じさせるわけにはいきません。かといって、国家試験受験資格を目指す養成校として、そのためのスケジュールは1ミリも待ってられません。文部科学省からのガイドもあり、オンラインによる授業を至急に仕立てる事態となりました。

オンライン授業のため実技系科目群は後期に送り、知識領域の科目群を前期に前倒するなどカリキュラム改編も考慮した前期授業のオンライン化を実現させることとしました。

それにしても、専門学校として技能・技術の育成を図る科目群を一時的にも封印することは、教職員

にとっても断腸の思いでした。何より、患者さんや利用者とコミュニケーションを密としながら療法支援を提供する職種にとって、対教職員やクラスメート同士でのコミュニケーションの経験は授業に匹敵する不可欠な教育資源です。これらに制約がかかる事態となった影響は計り知れないと認識しています。

それまでオンライン授業のノウハウなどありませんでした。にわか仕立ての教職員IT特命班に先導してもらいました。結果的に新学期2週間遅れの内には専任教員のオンライン授業開講が実現しました。おそらく、近隣の大学や同分野の養成校等に較べても一歩先じた新学期開講を整えられたのではないのでしょうか。

その後は、外来講師にも広げつつ分散登校による対面授業の開講も検討し、6月からは新1年生を中心に対面授業を開講させました。外来講師、教職員が文字通り一丸となって無事乗り切ることができました。もちろん、学生らの真摯な行動と適応力があったからこそ実行できたことは言うまでもありません。

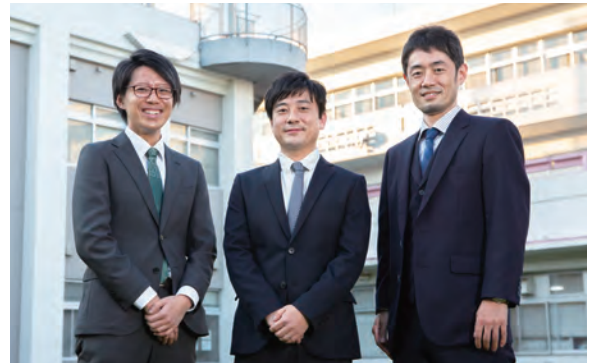
コロナ禍の社会に与える影響は大きく、しばらく続いていくでしょう。後期授業もオンラインと対面の併存で継続を図っています。満を持しての実技・演習系の授業も再開しています。

例えばコロナ世代とも言える2020年度の学生や卒業生に対して、今後とも数年にわたって見守りとフォローが必要になるでしょう。学院として最大限の応援と支援を惜しまない所存です。



オンライン授業導入の取り組み

2020年4月、新型コロナウイルスによる休校措置が取られる中、学生が自宅で学べるよう、当学院では初めてオンライン授業を導入しました。舵取りを担ったのが、IT特命班として活動した理学療法学科教員の福田崇先生、作業療法学科教員の河野崇先生、教務係の青柳圭祐さんの3人です。その取り組みについて伺いました。



ICTを使った学習支援を 2019年にテスト導入

—そもそもICT(Information and Communication Technology)教育にはどのような関心がありましたか。

福田 ICTを使った学習支援に着目していました。いつでもどこでも学習できる環境整備がICTなら可能になります。IT展示会に出向くなど情報収集を行い、2019年に当時担任だった夜間部2年のクラスで現システムの「G Suite for Education」(以下、G Suite)をテスト導入した経緯があります。

河野 自分の授業でオンライン授業が活用できればと考えたことはあります。しかし、学院全体で一気に導入することになるとは思いませんでした。コロナによって事態が大きく変わりましたね。

青柳 最先端の教育はどう進んでいるのか…という興味から、福田先生同様、情報収集を行っていました。学院への導入という点では、まず学生への連絡手段に活用したいと考えていました。既存メールシステムでは連絡が取れない・返信がないといったケースがありましたが、学院から学生にツールを提供することで、問題解消と利便性が高まるのではと感じていました。

福田 新型コロナウイルス感染症の問題が2020年年初から懸念されはじめ、2020年3月に帯刀先生の指示でIT特命班として、授業・学習系システムを導入する上での調査をすることになりました。その中でオンライン授業を行うには校務系業務とは別に学習管理システムを導入する必要があることが分かりました。この部分の理解には今まで情報収集で参加していたIT教育ソリューションEXPOが大変役に立ったと思います。

文部科学省が示す『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン』を参考にして既に導入



理学療法学科教員 福田 崇先生

していたOffice365を教員の校務系システム、学習管理システムとしてG Suiteの新規導入という形を提案しました。またオンライン授業が単位として認めてもらうための条件を文部科学省の専修学校設置基準と各種通知から教員が準備すべき授業要素を整理し、指針を作成しました。4月から運用することを念頭に、スケジュールを組みました(下表)。

スケジュール

- 1、学生へのアカウントの配布と利用端末の調整
- 2、必要な貸し出し端末の準備、授業資料等の整備
- 3、学生のアカウント認証とGoogle Classroomへの学生の参加およびそのフォロー
- 4、Classroom運用開始



庶務課教務係 青柳圭祐さん



作業療法学科教員 河野 崇先生

初めてのオンライン授業は 4月20日からスタート

——システム導入で苦心されたことは何でしょうか。

河野 教員および外来講師へIT機器の扱いをレクチャーするのに時間を要しました。オンライン授業が始まってからは学生からの質問も加わり、おそらく全教員が仕事とプライベートの時間があいまいになったのではないのでしょうか。

福田 河野先生と同様に当初は教員全員がG Suiteを含めたICT機器を扱えるようにすることに苦心しました。パソコンに精通している人もいれば、そうではない人もいます。しかし、学生にとってはどの授業も同じように受けられなければいけません。

青柳 先生方には非常にタイトなスケジュールで授業を組み立てていただきました。そのような中で、これまでの対面授業のスタイルをそのままオンラインに移行したいと考える先生方は、準備に苦戦をされているようにも感じました。

学生もPCやツールの操作に慣れている人がいる半面、未経験の学生も少なくありませんでした。当初は学校でオリエンテーションを行い、操作方法などを説明する予定でしたがそれがかなわず、メールを主にしたオンラインでの対応になりました。最初の1カ月くらいは授業が視聴できない、課題が取り組めない、資料の印刷はどうしたら良いのか…など、さまざまな問い合わせがあり、学生にも負担のかかる走りだしたのだと思います。

——授業は録画形式のオンデマンド型になりました。

河野 調査の結果、すべての学生がパソコンを保有していないことが判明したので、スマートフォンやタブレットでも対応可能なオンデマンド型のオンライン授業を実施することになりました。また、リアルタイムの双方向型と比べ、オンデマンド型は通信量も抑えられます。オンデマンド型は、教員が授業動画をインターネット上にアップロードし、そこに学生がアクセスすることで視聴できるものです。リアルタイムの授業と違って自分の都合のよい時間に、繰り返し学習できるので、理解をより深めることができると思います。

福田 授業動画はスマートフォンでの視聴でも問題の少ないYouTubeの限定公開での配信としました。ただし、患者さんが映りこんでいる画像など個人情報が出るといったリスクの高い動画はアップロードせず、登校時に視聴するよう、留意しました。モザイク処理を施した教材もあります。学生にもYouTubeのURLを漏洩しない、オンライン授業で得た情報は拡散しないといった指導を行いました。

著作権などの情報が春先の時点ではほとんどなく、デジタル教材利用の許可について苦慮しました。

青柳 そのときは他校におけるオンライン授業の情報をかなりチェックしていました。自分が大学を選ぶときより調べていたと思います（笑）。

福田 5月の連休明けにはほとんどの授業をオンライン授業で開講できるようになりました。7月末までに前期授業をほぼ完了させ、9月には試験を予定通りに行うことができたことは教員、学生の皆さんに感謝しています。

システム導入から運用までを進めていくのはたいへんでしたが楽しくもあり、貴重な経験を得たと思います。

次年度のオンライン授業は 質向上を目指す

——学生への連絡はどのようにされていましたか。

青柳 今回導入したシステムG Suiteには、「Classroom」という機能が含まれています。オンライン上で運営するクラスで、科目ごとにClassroomを作成したり、ホームルームを立てて学院からのお知らせや時間割などを提示したりしています。Classroomを用いて学生にアンケートをお願いすると、メールで依頼したときより回答が集まりやすくなりました。

河野 コミュニケーションが取りづらい中、対面の補完としてClassroomを情報伝達ツールとして利用しています。授業の課題の配信や提出状況も確認できます。手書きのレポートがなくなって、情報が集めやすいですね。

——後期授業では対面授業も再開しました。今後についてお聞かせください。

福田 後期授業はオンラインと対面の割合が6対4でした。次年度も併用した授業、またその発展型であるハイブリット型が実施されていくことになると思います。ただ、オンライン、対面問わず、授業は常にアップデートが必要です。学習支援の面でもICTをもっと活用していければと思います。

河野 今後もオンライン授業を実施するなら、馴れてきた分、授業準備も効率よくできると思います。その上で質の向上を目指したいですね。リアルタイム

の双方向型授業についても検討していきます。

青柳 現在、パソコンを保有していない学生の貸出用にノートパソコンを50台確保しています。将来的には、すべての学生が同じ環境で学べるよう、また相談支援などに対応できるよう、一人一台提供できればと思っています。

—ありがとうございました。

収録日2020年12月21日

論文

臨床実習学内代替演習におけるオンデマンド授業の試み

専門学校 社会医学技術学院 藤川明代
(理学療法学科 教員)

Keyword: 総合臨床実習学内代替演習 オンデマンド授業 Google Classroom

【目的】

当学院の夜間部臨床実習は4月から8週間を2期予定していたがCOVID-19の影響により病院での臨床実習を断念せざるを得なかった。そこで、関連官庁事務連絡に従い、学生に単位を取得させ、卒業させるという目標のもと、オンデマンドによる学内代替演習を試みた。

本研究の目的は、このような初めての状況で新しい試みを振り返り、その成果と学生や教員の感想から改善案を模索することである。

【方法】

対象は最終学年夜間部26名である。学習管理システム(Learning Management System :LMS)のひとつであるGoogle Classroomのオンデマンド授業管理システムを使用し、臨床実習に代わる臨床課題を学生がオンデマンド上で提出した。臨床実習実務時間9時間(1日8時間勤務+1時間家庭学習)とし、1週間(5日)で45時間となる。それを1日540分としオンデマンド授業1コマ90分とすると1日6コマ(6課題)として行った。40日間の実習期間で1日6課題となるので全部で240課題を行った。内容は個別学習を主として、同時双方向のグループワークも取り入れた。各学生には担当教員を臨床実習指導者と想定させ、担任が学内代替演習全体のコーディネーターとして統括した。

本内容は厚生労働省医政局へ内容の確認を行い実習単位が取れる内容であると回答を得ている。その内容や課題量など学生・教員に聞き取り調査を行った。なお、本研究はヘルシンキ宣言に則り、対象者の同意を得た。

【結果】

すべての学生が8週間の学内代替演習を終了することができた。学内代替演習の成果物としては症例レポートと動作分析レポートを2本ずつ仕上げることができた。

学生の意見をまとめると、レポート作成に必要な薬物の作用副作用や血液データの結果の解釈、病態を理解するための解剖学運動学の自己学習の時間がしっかり確保できた。一つ一つの課題に添削があるので課題を進めやすいなどの意見があった。またオンデマンドを使いこなすのが難しいなどの意見もあがった。教員の意見をまとめると、一つ一つの課題に返信(採点)が大変であった。他の授業準備もある中で負担が大きいなどの意見があがった。

【考察】

今回の学内代替演習が本来の病院実習の代替えとして機能していたのかを考察する。調べ学習や臨床推論に時間をかけることができるので知識の獲得や臨床推論の訓練にはなるのではないかと考える。動画を何度も見ることでき、同一患者を学生全員で分析するのでグループワークの際、学生間で議論が活発になり、より理解を深めることができていた。しかし、病院実習で学ぶべき実技や患者さん自身への理解を深めることは紙面上の患者では難しいと感じた。

今後は、今年度行われるすべての学内代替演習に対し今回の経験を活かしながら方法や課題量を検討しより良い学内代替演習を行っていきたい。

※本稿は、第9回日本理学療法教育学会学術大会における発表を論文化したものです。

特別寄稿

新型コロナウイルス集団感染経験後の リハビリテーション実施状況の変化



医療法人社団 総合会
武蔵野中央病院

リハビリテーション科 細井 匠
理学療法学科夜間部2002年卒業

私の勤務する武蔵野中央病院(東京都小金井市)は、1階に内科病棟、2階と3階に精神科病棟を擁し、「心と身体の医療」を提供する病院です。

当院では従来から感染予防対策に力を入れていたのですが、新型コロナウイルス感染の第一波が終息しつつあった2020年5月下旬、精神科病棟で職員から患者へ感染が広がり、「緊急事態宣言解除後初のクラスター発生」として大々的に報道されました。その後、最後の陽性者が転院した6月25日までの間に患者51名、職員12名が新型コロナウイルスの感染を経験しました。

この間、保健所から「リハビリテーションは全面的に中止し、再開は最後の陽性者が転院してから4週間後」と指導を受け、7月27日まで中止となりました。本来の業務が行えないことに強いストレスを感じましたが、自分も含めて誰が感染しているかも分からない状況では致し方なかったと思います。

報道後、清掃業者が撤退したという事情もあって、中止期間中はリハビリテーション科の職員が院内の共用部分の清掃と消毒作業に加えて、患者の買物代行、医療廃棄物のダンボール組み立てなどの雑用を担うことになりました。



幸いなことにリハ科の職員に感染者は出ませんでした。風評被害により、同居する家族が会社への出勤停止処分を受ける、家族との一時的な別居、保育園への立ち入り拒否などを経験した職員もおり、報道の力の恐ろしさと、第2、第3の感染症といわれる「恐怖」と「差別」が簡単にまん延することを肌で感じた期間でもありました。

このような状況下でリハビリテーションを再開するに当たり、公的機関や他部署に納得してもらうためには、より厳しい感染予防対策を取る必要がありました。そのために大きく変更した点は以下の4点です。

1. 病棟ごとに担当する療法士を固定し、複数の病棟にかかわらない。
2. 病棟ごとにリハビリ室を使用する時間を区切り、別の病棟の患者が交差しないよう実施する。
3. リハビリ室を使用する患者は、その必要性が高い人に限定し密を避ける。同時に使用する患者は3名までとする。
4. 患者にもマスクの着用とリハビリ室への入退室時に手指消毒を求める。

このように再び集団感染が発生しても、リハビリテーションを全て中止する必要のない体制を構築し、何とか再開に漕ぎつけました。

現在は本来の業務を再開し、改めてこの仕事の面白さをかみしめているところです。

withコロナ時代 — 私たちの2020

コロナ禍においてどんな風に過ごしていたのか、
社医学生のリアルな1シーンをお届けします！

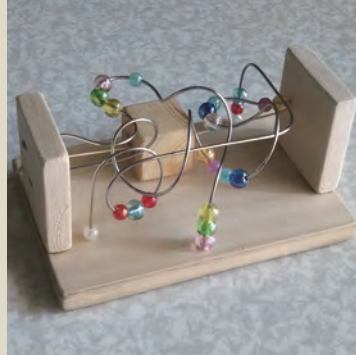
(学年は2020年応募時。順不同)



「5カ月でここまで成長しました」

4月12日、娘が生まれました。コロナでの自粛により、友人や先生方に会うことができない日々。社医学での最後の一年がこのような形になり寂しいですが、子どもと長い時間を過ごすことができたのは貴重な経験だと感じています。

理学療法学科昼間部3年
佐藤恒平さん



「ルーピングの作成」

授業課題の延長で、趣味を兼ねたオリジナルのルーピングを作ってみました。立てても使えるし、ピースだけでなく立方体の木も動かせます。ちなみに立方体が紐からずり落ちないカラクリ、わかりますか？

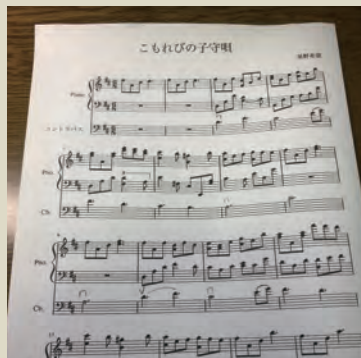
作業療法学科3年
谷本人士さん



「まるこ」

自宅で飼っている鳥です。ダイエット中ですが運動嫌いでもどこかでまったりしています。ふとしたときに見たらおもちゃのようになっていました。かわいい。

作業療法学科3年
芳賀千寛さん



「止まった音楽が動き出すときに向けて」

コロナ禍により音楽活動も自粛が強いられていますが、井上はピアノを、湯本はコントラバスの練習を日々行っています。2人で取り組んでいる曲は星野希望さん作曲「こもれびの子守唄」。作曲家の星野さんは、脳脊髄液減少症とも闘っている方です。さまざまな困難を乗り越え、またみんな音楽を思いっきり楽しめる日に向け、それぞれ準備を怠っていません！

昼間部理学療法学科1年
井上琉樹さん、湯本悠介さん



「くまとうさぎ」

自粛期間の空いた時間で編み物のかぎ針編みでくまとうさぎを作りました！！フードを脱ぎ着できてとてもかわいいです(^ ^)

作業療法学科2年
栗本萌夏さん



「スマホスタンド」

コロナによりオンライン授業が開始され、パソコンを持っていない私はiPhoneとiPadの使用頻度が増加しました。そこで、急速充電に対応したケーブルを買いました。ケーブルを梱包していた段ボールがちょうどいい大きさだったので、スマホスタンドを作ってみました。

理学療法学科昼間部2年
萩生龍平さん



「うがい」

コロナ自粛中、小学校に入学した息子のうがいがすごく上手になりました。うがいで簡単なことですが、子どもが最近うがいの重要性が分かってきたのも、親として、社医学の学生としても嬉しいかぎり。

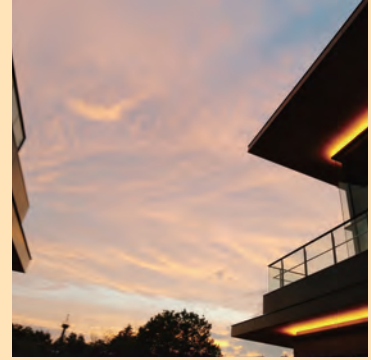
作業療法学科3年
中村千尋さん



「ステイホーム期間中のリフレッシュ法」

ステイホーム期間中、外にもほとんど出られずに自宅学習も行き詰まり、気分転換に元介助犬のPR担当だったヨーゼフ君のシャンプーを手伝いました。フレンドリーなヨーゼフ君がたっぷりと癒してくれました！

作業療法学科4年
伊藤美咲さん



「帰り道の夕焼け」

学院からの帰り道に夕焼けを見ることが、私の秘かな楽しみです。夕焼けを見ると癒され、明日もまた頑張ろうと思うのです。

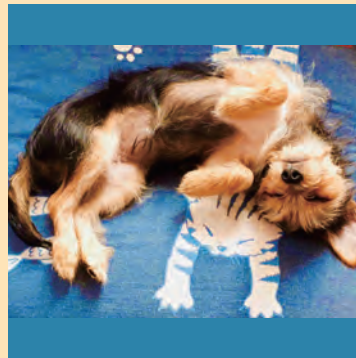
理学療法学科昼間部1年
中村聡子さん



「運動プログラム」

自粛中に考えたんですよ。どうしたらラテアートがうまくなるか。「意図した軌道」に対して「実現した軌道」のズレをどのような回路でフィードバックするのか。でも思ったんです。深入りしすぎるのは良くない。コーヒーだけに。

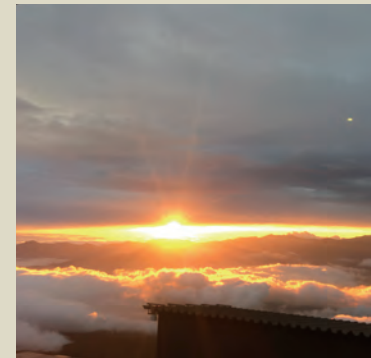
理学療法学科昼間部3年
阿達大地郎さん



「可愛いわんこ」

のんびり寝ているわんこです。コロナで外出することができず、自宅にこもっている際の癒しでした。

作業療法学科3年
田中夏海さん



「試験を頑張った自分へのご褒美」

コロナで対面授業からオンライン授業になり、どのように勉強して良いのか悩みました。気楽に話せる仲間が隣にいないと思うだけで、勉強に身が入らず、ステイホームで外出を控えていることもあり、気が滅んでいました。そんな中、登山者の激減による山小屋閉鎖のニュースを聞き、少しでも力になればいいと思い山頂付近の山小屋に泊まろう、期末試験を頑張った自分へのご褒美にと、猛勉強することを決めました。前日の天気予報は雨でしたが、登り始めたら雲が晴れ、遠くにはっきり見える北アルプスや南アルプスの景色にみんなで感嘆の声を上げました。山頂からの景色も、星空も、夕日も、御来光も、温泉も、最高のご褒美でした。

理学療法学科夜間部2年
田賀谷則夫さん

当学院におけるコロナ禍の学生支援、感染対策

- 【学
生
支
援】
- ・当学院独自の「学習特別支援金」を全学生に対し1人一律2万円支給。
- ・同窓会と連携し、最終学年向け奨学金に特別枠を設置。
- ・受講環境が不十分な学生向けにノートパソコン40台を購入。学内のノートパソコン40台を最新機種に更新。全教室を対象に校内Wi-Fi設置。
- 【感
染
対
策】
- ・検温用サーモグラフィーを購入・設置。
- ・手指、教室の机・椅子、トイレ、階段の手すりなどの消毒徹底を図るため消毒液、クロス、使い捨て手袋を緊急に購入。
- ・換気のため大型、小型の扇風機、サーキュレーターを購入・設置。マスク、アクリルパーテーションなどの大量購入。



輝く社医学卒業生

社会人として輝く先輩たちに、学生時代や仕事について伺いました。



KAZUNARI TSUJI
Graduated in 2004

EVERYLIFE合同会社代表
リハビリガーデン ほろほろ施設長

辻 一成さん

理学療法学科夜間部2004年卒業



トラック運転手をしながら
社医学へ通っていたころ



リハビリガーデン内の
ウッドデッキで歩行を練習

維持期におけるリハを追求し、生きがい創造型のリハビリ施設を開設

大学卒業後、一般企業に就職しました。将来像がなかなか見いだせない中、友人がリハビリに取り組む姿を見て理学療法士に興味を持ちました。

そして5年後に理学療法士を目指し、住んでいた大阪を離れて上京。仕事をしながら学べる夜間の学校が当時の大阪では開校予定の1校だけだったので、伝統校の社医学を選びました。大学受験と同じくらい受験勉強をしたと思います。

27歳で入学し、昼はトラック運転手として働きながらの学生です。先行きの不安は感じながらも、クラスメートとは旅行へ行ったり、バーベキューをやったりと、学生生活を楽しんでいました。

理学療法士になったらスポーツリハビリテーションに携わりたいと思い、スポーツ外傷・障害に遭遇する急性期病院や整形外科クリニックで働きました。

しかし、アルバイトで訪問リハビリに関わってから介護分野への関心や興味を、正確にいうと、あるわだかまりを感じるようになりました。

ご利用者様は週一度、私の理学療法を受けるだけでリハビリをしたと満足されます。けれどその方は歩くことができるのに、そのリハビリの時間以外、ほとんど体を動かす機会がないのです。

このような状態が続いたら、誰でも生活能力は落ちてしまいます。また、ルーチン化したリハビリをずっと続ける方も少なくありません。こんなこと

を数多く目の当たりするうちに、退院してからの維持期におけるリハビリテーションの求めるべきことは何なのか、模索するようになりました。

その結果、理想と考える自立支援、生きがい創造型のリハビリテーション通所介護施設をつくりたいと一念発起。通所リハビリ施設に5年ほど務めケアマネジャーの資格を取り、理想と考える施設、「リハビリガーデン ほろほろ」を2014年に神奈川県鎌倉市七里ガ浜に開設しました。

ほろほろとは、ハワイの言葉（Holo Holo）で、ぶらぶらお散歩するという意味です。

理学療法士、作業療法士を配置し、訓練プログラムと評価、半日型（3時間）のサービスを基本にしています。意欲的にプログラムが遂行できるよう万歩計を付けてもらい、活動量の目安にしています。施設が住宅であることを利用して日常生活関連動作を練習できるのも特徴です。高齢者の達成感や使命感を引き出せるよう、人や地域に役に立つ、活躍できる場も提供しています。

2017年には北鎌倉に全日型のリハビリデイサービス施設を立ち上げました。

学生の皆さんには、リハ医療の急性期から回復期、そして維持期の3段階すべてを経験して、いろいろな活躍の場があることを知ってほしいですね。



AIICHIRO KAWAMOTO
Graduated in 1984

有限会社リハシップ あい社長

川本 愛一郎さん

作業療法学科夜間部1984年卒業



社医学3年次、先生と
クラスメートでの夏キャンプ



有限会社リハシップ あい
のスタッフとともに

退院後の生活をいかに支えるか、作業療法の強みを生かした起業で社会・地域に貢献

妹が持っていた少女漫画『星よきらめけ!』。理学療法士の卵と看護師の卵のラブストーリーを大学生の時に読み、理学療法士に興味を抱きました。

理学療法士を書籍で調べていくうち、作業療法士について書かれた箇所が目が留まりました。「自分が求めている仕事はこれだ!」と直感し、作業療法士になると決意しました。そのころ、父は水俣病患者として加害企業のチツソ株式会社と補償問題をめぐり、患者側のリーダーとして先頭に立って闘っていました。作業療法士になりたいと相談すると「家には金はない。自分の力で行け」と言われ、「働きながら学ぶ社医学」を選択。大学を辞め、作業療法学科第1期生として入学しました。

クラスメートは多士済々の面々でした。文化祭では私が脚本を書いた「夕鶴別伝」という舞台劇を上演して大いに盛り上がり、「空手同好会」をつくって講堂で練習したりするなど、どれも忘れられない青春の1ページです。

卒業後は鹿児島県出水市立病院に入職。作業療法室の立ち上げが最初の仕事でした。さまざまな疾患を経験させていただき、病気やケガをされた方の苦しみや悲しみ、回復時の喜びなどやりがいがありました。

しかし、1990年代の後半から「入院から在宅へ」の流れが加速し、私自身も在宅への関心が高まり

ました。そんな中、ある70代後半の患者様のご自宅を退院時指導（家屋改造指導）で訪問した時のこと。病院から車で約30分、山の中のポツと一軒家、外トイレ、外風呂、土間にかまどなど段差だらけの環境、老々介護、年金暮らしの状況に、私は手も足も出ませんでした。

この衝撃体験以降、退院後の生活支援こそ最も重要ではないか、私にできることはないかと、悶々とする日が続きました。デイサービスの見学や情報収集を行いながら、やがてデイサービスを開業したいという思いが深まっていきました。

そして2004年2月に「有限会社リハシップ あい」を設立し、リハビリ活動重視型デイサービスセンター「リハシップ あい米ノ津」を開業。現在、熊本県、鹿児島県内でデイサービス5事業所、訪問看護1事業所、児童発達支援2事業所、居宅介護支援1事業所、有料体験型ピザ窯事業、地域カフェ事業等を展開しています。「地域のご真ん中company teamを目指して」を合言葉に、88名のスタッフと頑張っています。

起業も作業療法の強みを生かした一つの社会貢献だと思います。作業療法士は、精神と身体の両方の視点から「その人らしさの回復」をお手伝いできます。また、ICF（国際生活機能分類）も活用できるので、地域での活躍がますます期待されるでしょう。



「介護予防」と私

キャリア支援室 室長
和島 英明



市町村の「介護予防事業」に関わってあっという間に20数年。始めた頃、介護予防セミナー等に参加される地域高齢者の方々は、自分の親くらいの年齢でした。話をしていると、人生の長さや重みを実感したものでした。最近では、参加者と自分の年齢が徐々に近くなり、複雑な心境です。

多くの高齢者と関わってきた経験、また地域ケア会議等で話題になる高齢者の状況から、3つの課題があると思います。

まず、ウォーキングや体操等は日常的に行っている、負荷のかかった特別な運動（筋トレ、有酸素運動等）を実践している方は少ないという点です。そのため、知らず知らずに体力・筋力が低下し、気づいたときにはかなり手遅れになって問題化することが多々あります。

次に、「ソーシャルサポート」の重要性が、特に男性高齢者に浸透していないことです。さらに、自助・共助を促す「自主グループ化」も今後の大きな課題となります。

現在、上記3つの視点から事業展開を行っています。今後さらに「進化した介護予防事業」を目指せたらと考えています。自分自身の介護予防にも生かしながら。



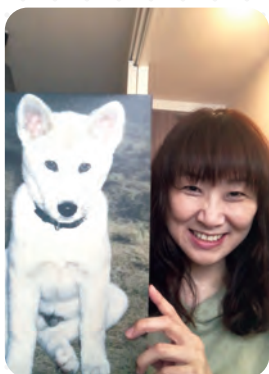
教

思いつくまま 働く

紹

「ナルト」と「華」

理学療法学科 教員
長屋 説



癒やしが欲しくなると、車で5分の友人宅にお邪魔します。何も言わなくても出てくるおいしいお味噌汁と「ナルト」(写真下・左)と「華」(写真下・右の子ども)が大好きなのです。

ナルトは福島の被災犬です。生後6カ月に福島から友人宅へ来た頃は「かわいい～」という声におびえ、車に酔い、何かと怒られていました。が、今では「お手・待て」はもちろん、扉の開け閉め、華の相手もします。

華を2階に寝かせにいくと「俺も！」とついてきます。華を寝かしつけ、大人たちが「ケンタッキーの会」を始めると、「やべやべっ本当に寝ちゃったよ～」と言わんばかりに慌てて1階に下りてきます。そんな間抜け加減にも癒やされます。写真の通り華に絡まれ、ビールの帽子をかぶらされていることもあります。

そんな中、不意に「ナルトの生後6カ月間」をのぞきたくなります。「覚えているのだろうか」「今の暮らしはどうか」。ゆっくり聞いてみたいものです。

※私と一緒に写っているのは実家で飼っていた秋田犬テツです。家族それぞれが毎日散歩に連れていったので4カ月にして腹筋が割れました(笑)。





失われた「作業」

作業療法学科 学科長
河野 達哉



私は幕末に活躍した新選組で有名な土方歳三が生まれた東京の日野市で育ちました。小学校の同級生に直系の何代目かのお孫さんがいて、その家には立派な刀が飾られていたのを見た記憶があります。

多摩川や浅川、田んぼ、丘陵がある地域で、遊びのグレンデは「自然」でした。当時の遊びは、体を動かしたり、何かを作ったりといった「作業」であり、心身の機能を使い、集団内、集団間でコミュニケーションを交わり、環境との相互関係の中で、さまざまな経験を積むことができました。

現代の子どもたちの主なグレンデは「ゲーム」です。情報源という視点で見ると、どちらも未知数で変化に富むということは同じで、知的好奇心を刺激されます。一方、自然の中での遊びと比べると、ゲームは心身で使う

箇所や機能はかなり限られますね。その他にも使うことがなくなっている機能があるのではと感じています。

時代が変われば生活環境の違いがあって当たり前です。その違いは生活の上で何にどのように影響しているのでしょうか。生まれ育った環境はその人の現在に多かれ少なかれ影響を与えます。小さい頃の遊びが将来の生活機能にどのような影響を与えるのかを考えてみるのは興味深いものです。



員

・遊ぶ・暮らす + α

介

学び続ける

理学療法学科 教員
林 佑樹



最近のマイブームは、早朝5時くらいにベランダに出て、挽きたてのコーヒーを淹れて飲むことです。まだ街が活動する前の、静かな時間が好きです。薄暗い夜空をオレンジ色に染める朝日、一日の中で最も冷たく感じる風、風が運んでくる土や草の匂い、顔にあたる風の音、鳥や虫の鳴き声、自然の力が心地良く全身を包み、深呼吸をして体内にも取り込みます。

その時間で考えたことは、COVID-19が蔓延したことにより、私たちの生活・社会は変化を強いられたということです。イギリスの自然科学者であるチャールズ・ダーウィンは次の言葉を残しています（実際には彼の言葉ではないようですが）。

「唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」——確実に変化していく社会の中で生き残っていくには、私たちもその変化に適応していく必要があります。世界的にもIT化が進み、AIが発展し、小学生からプログラミングを学ぶ時代に突入しています。

そこで、私もプログラミングを学んでみようかなと思い立ったわけです。今回の『社医学ひろば』が発行される頃には、すでにプログラミングを学び始めているはず！？です。学生と一緒に、新しいことを常に学んでいきたいと思います。





クラスメートの横顔 *- meet our classmates -*

さまざまな年代や経歴を持つ学生が机を並べる当学院。
そんなクラスメートの横顔を紹介します。

女子プロボクサーとして日本人最多の17連続世界
王座防衛記録を達成した小関さん。理学療法士を
目指すまでの道のりを聞きました。

——ボクシングを始めたきっかけと成績を教えてください。

小学生のとき、テレビでボクシングの試合を見たことが始まりです。ディフェンスワークに優れ、フルラウンド打ち合っても顔に傷ひとつない選手の試合を見てすっかり魅了され、中学1年生からボクシングジムへ入会しました。大学在学中の2002年に日本で女子のアマチュアボクシングが認可され、第1回全日本選手権で優勝しました。

それから日本代表としてアジア大会や世界選手権に派遣されることを目標に続けていましたが、2008年の北京オリンピックでは女子ボクシングが正式種目にならないことが分かり、先が見えなくなっていました。

——その頃、日本には女子のプロボクシングは存在していませんでした。

翌年からプロが認可されることを知ったジムの会長から、一足先に海外（タイ）でのデビューを打診されました。でもアマチュアと異なり、プロはヘッドギアを着けず、グローブも小さくなる。こわいし、デビュー戦はわずか2週間後。悩みに悩んで、たった一晩で決断しました。人生のターニングポイントでした。

当時は栄養士の資格取得のために専門学校へ通っていました。金曜午前の授業が終わり次第成田へ直行し、土曜未明にバンコクへ着いてから朝方



理学療法士を知るきっかけをつくってくれたご祖母様との一枚



理学療法学科夜間部2018年度入学
小関 桃さん

当日計量して夕方試合、そしてトンボ帰りで日曜の昼過ぎには成田へ、月曜は学校という生活を繰り返しました。

翌年、日本でプロテストを受けて2008年の試合でWBC女子世界アトム級王座を獲得したのですが、決定打が「バッティング」という後味の悪い結果になってしまいました。ビデオ裁定を経て王座獲得が認められたものの、関係者やファンから非難を浴び、ベルトを手にした代償に重たい十字架を負いました。私には常にバッティングという代名詞がついてまわり、払拭できるほど圧倒的な実力もなく、そんな自分が恥ずかしくて悔しくて…。

——しかし、そこから快進撃が始まります。

アンチを黙らせたのは2015年、WBAの同級王者との統一戦に勝ったときでしょうか。この時点で防衛回数は16回になりましたが対戦相手が見つからず、モチベーションの維持が難しくなりました。防衛は17回で終わりにし、1階級上のクラスへ挑戦者として臨んだ試合を最後に引退し、翌月に社医学の入試に臨みました。

やるべきことはその日のうちにやる。できないことはできるようになるまでやる。ボクサー時代に身に付けた習慣は、今の勉強にも通じていると思います。とはいえ、勉強はめっちゃめっちゃ難しい！課題や実技も、毎回クラスメートに助けられています。仲間ってほんとに大事ですね。焦らず根気よく、目の前の課題を一つ一つクリアしていきたいです。

米国で幼児・障害者教育を学び、療育現場で働いていた荻村さん。学びのきっかけやその経験を話していただきました。

—まず渡米した理由やその頃のお話を聞かせてください。

当初は、語学留学のためでした。でも、大学で専門分野を勉強するという目標を持っていた周りの友人たちに感化され、幼児教育を専攻することを決め、私もコミュニティ・カレッジに進学しました。幼児教育を専攻したのは、当時、日本で子どもによる衝撃的な事件があって、子どもの発達段階やそれを影響するもの・教育・経験などに関心を持ったのがきっかけでした。

カレッジにはデイケアが付設されていて、現地の子どもたちと触れ合う機会が多くありました。みんなすごく可愛くて、どんどんその分野にのめり込み、もっと学びを深めたいとCalifornia State University, Fullertonに編入しました。

—編入後、どんな勉強・活動をされましたか。

主に発達学を勉強しました。その授業の一環で、大学が提携しているデイケアやプレスクール、リハビリセンター等でインターンをしたり、外部の吃音症のサークルにも参加しました。リハビリセンターでインターンをしていた時、自閉症的傾向がみられる女の子がいて、その子が私といると笑顔が多いと教員から言われたことがありました。街中でダウン症の子どもに突然話しかけられることもよくありました。そんなことが重なって、自然と障害児教育に関心を持つようになりました。



LESLEY UNIVERSITYにて
教育学修士号を取得



作業療法学科夜間部2020年度入学
荻村映美さん

—大学卒業後、BOSTON HIGASHI SCHOOL (BHS)に勤務されます。

BHSは、ボストン郊外にある、3～21歳の自閉症児・者を対象とした、日本でいう特別支援学校です。寮プログラムも併設されていて、私はそこで生活技術や行動面、レクリエーション活動、ソーシャルスキルなどの指導に携わりました。自他への暴力行動や例えば強いこだわりなどの問題行動が理由で、家族と一緒に住むのが難しい中重度から重度の自閉症児・者がほとんどでしたが、『生活療法』という「体力づくり」「心づくり」「知的開発」の3つを重要な柱とした包括的なアプローチを行っていました。自閉症児・者のための教育法ですが、教育・療育全般に通ずるものがあり、医療と療育の専門スタッフがチームで働くことの大切さを学びました。そして、障害児教育をもっと追求したいとLESLEY UNIVERSITYの大学院に入学し、BHSで働きながら教育学修士号を取得しました。

—BHSでの勤務は貴重な経験でしたね。

日本に戻り現在、児童発達支援事業所で保育士として働いています。医療的ケアやリハビリが必要なさまざまな障害を持つ子どもたちが対象ですが、療育への思いや考え方、子どもへのアプローチ、いずれも『生活療法』にリンクします。今こうやって作業療法士を目指しているのも、BHSでの経験が原点だと思います。初めての療育現場での経験でしたが、これからもずっと私を支えてくれる大切な経験です。

shaigaku



広報誌「社医学ひろば」第3号 2021年 No.3
発行 学校法人 日本リハビリテーション学舎
東京都小金井市中町2丁目22番32号
TEL 042-384-1030 (代)
FAX 042-385-0118
発行人 宮武 剛
発行日 2021年4月